

『臥龍梅』 蔵便り

平成二十五年卯月

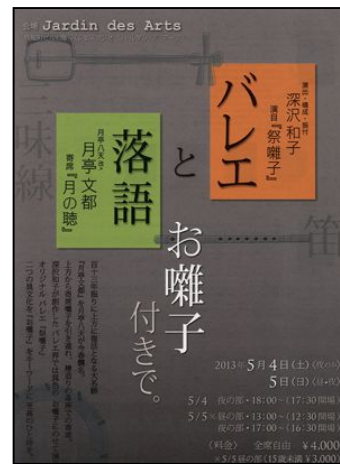


拝啓 春眠暁を覚えぬ好季節となりました。皆様お元気でお過ごしでしょうか。



毎年この時期の蔵便りでは興津清見寺の臥龍梅の開花写真をお届けしておりますが、今年は趣向を変えて一幅の浮世絵をご覧ください。これは有名な江戸時代の絵師、安藤広重による「名所江戸百景」のうちの第30景「**亀戸梅屋敷**」という作品です。大胆な構図と斬新な色使いで傑作の誉れ高く、後年あのゴッホが模写しているほどです。画面手前に大きく描かれているのは何と臥龍梅で、その枝の間に梅屋敷の情景が描かれております。梅屋敷は臥龍梅の梅園で有名だった江戸時代の行楽地で現在の江東区亀井戸にあったそうです。明治43年に大洪水で消失してしまいましたが、その梅屋敷をモチーフにした商業観光施設「亀井戸梅屋敷」が3月17日にオープンしました。同地区商店街の連携事業で、スカイツリーで脚光を浴びる東京の下町に更にお客様に来ていただくというものです。当社では、臥龍梅つながりで、ご同地亀井戸のその名も「**発酵文化応援団**」という名前の料飲店さんと2月にお酒の会を開いていただきました。そんなご縁もあり、私も梅屋敷に臥龍梅の梅園を復活させるプロジェクトのお役に立てたらと、清見寺のご住職に臥龍梅の枝を分けてくださるようお願いしているところです。駿河の地で家康の接木した臥龍梅がもう一度江戸の地で甦るかと思うと、ロマンをかき立てられます。亀戸よいとこ、一度はおいで、～♪

さて、臥龍梅応援団の団員、望月さんが地元静岡で粋なイベントを開催します。題して「**バレエと落語—お囃子付きで**」。今春、113年ぶりに上方に復活となる大名跡を襲名した**月亭文都**さんが上方から寄席囃子を引き連れて檜造りの高座で寄席を開催します。また、斯界の権威、**深沢和子**さんがバレエ界では異色のお囃子にのせて演じるオリジナルバレエ「祭囃子」を同じ会場でご披露します。いわば「お囃子」をキーワードにふたつの異文化が会おうわけです。さらに幕間には臥龍梅を飲んでもうひとつの文化も勉強していただきます。会場はバレエスタジオ **Jardin des Arts**(ジャルダン デ アーツ) 静岡市葵区呉服町 1-6-11 呉服町ビル 6F、開催は 5/4 夜の部 18:00～ 5/5 昼の部 13:00～ 夜の部 17:00～の3部制で、会費はお一人様 ¥4,000。お問い合わせは、バレエについては**バレエ団芸術座**まで (Tel 080-1327-1593) 寄席については**望月**まで(090-7952-2331)。是非ともふるってご参加ください。



さて、今月はお待ちかね、幻の酒造好適米、**短稈渡船**を50%精米で用いた**純米大吟醸の無濾過原酒**と**袋吊零酒**を新たにご案内いたします。山田錦とも雄町とも違った独特の華やかさが魅力です。数量に限りがございますので、どなた様も是非ともお早めにお試しください。先月ご案内したばかりの**愛山**を使った**純米大吟醸の開場十里香**と**山田錦の純米大吟醸**は発売早々在庫僅少となりました。こちらもお早めに。

春和の候、皆様ますますお元気でお過してください。

平成25年4月吉日

敬具

鈴木 克昌